

令和6年度第1回栗東市総合教育会議

開催日時 令和6年8月30日(金) 13:20~14:57

開催場所 庁舎 4階 第1委員会室

議長 市長 竹村 健
教育長 今井 義尚
教育長職務代理者 朽木 徳壽
委員 内記 一彦
委員 田中 和子
委員 多田 玲子

事務局出席者 市長公室長(井上)、秘書広聴課長(西川)、秘書広聴課課長補佐(橋内)
教育部長(太田)、教育総務課長(田代)、学校教育課長(中川)、学校教育課
参事(山口)、人権擁護課参事(安本)、生涯学習課長(川津)、スポーツ・文
化振興課長(赤井)、国スポ・障スポ推進課長(秋田)、幼児課長(織田)、幼
児課参事(内田)、図書館長(西村)、書記(小林)

会議を傍聴した者 一般傍聴者 0人 市政記者等の傍聴者 0人

西川秘書広聴課長

定刻より少し早いですけれども、皆さまお揃いになりましたので、ただいまから令和6年度第1回栗東市総合教育会議を開会いたします。

皆様におかれましては、ご多用の中、ご出席をいただきありがとうございます。私は市長公室秘書広聴課の西川でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

本日開催いたします総合教育会議は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第1条の4で定められている会議でございます。市長と教育委員会が栗東市の教育課題や目指すべき姿を共有し、連携して教育行政を推進しようという会議でございます。本日は、「次期 栗東市教育大綱について」をテーマとして、意見交換をしていただきたいと思いますので、よろしくお願い申し上げます。

それでは、会議の進行につきましては、栗東市総合教育会議設置要綱第4条の規定に基づき、会議の議長を市長にお願いいたします。

議長：竹村市長

はい。失礼いたします。まずご挨拶申し上げたいと思います。

平素は栗東市政にわたりまして、大変、教育委員の皆様方には、お世話になっておりますこと、この場をお借りしまして御礼を申し上げます。とりわけ、教育行政におきましては、皆様のお知恵をいただきながら、現在、教育委員会の中で、様々施策を進めさせていただいておりますこと

も、感謝を申しあげたいと思います。また台風が近づいていたということで、肝を冷やしましたが、歩みが遅いということで、開催ができました。限られた時間ではありますが、忌憚のないご意見をいただきながら、この会議を進めたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは早速ではありますが、議事を進めさせていただきます。

本日の議題といたしましては、次期栗東市の教育大綱について、でございます。

資料に目を通していただきながら進めていきたいと思います。

それではまず事務局より説明をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

太田教育部長

教育部長の太田でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

まず本日の議題の教育大綱でございますが、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第1条の3の規定により、市長の策定が義務づけられております。また、第1条の3第2項の規定におきまして、大綱の策定に当たり、あらかじめ総合教育会議でご協議いただくこととされておりまして、これまで、策定してきました第3期の栗東市教育振興基本計画の中の目標や施策の根本部分がこの教育大綱に該当するとされ、教育大綱にも位置付けされております。教育基本法に基づき、教育振興基本計画を策定しており、現行の教育振興基本計画の計画期間が令和6年度末で終期を迎えることから、令和7年度から令和11年度までの5年間の栗東市教育振興基本計画を策定するものでございます。

今回策定する第4期栗東市教育振興基本計画におきましても、市長が総合教育会議において教育委員会と協議し、教育振興基本計画をもって大綱に代えることと判断した場合には、別途、大綱を策定する必要がないとされております。

本市では、現在の第3期栗東市教育振興基本計画も、令和元年度に開催された総合教育会議において、教育大綱に代えさせていただいており、今回、これからご協議いただく骨子案により、施策の目標や方針の部分が大綱に該当すると位置付けられれば、第4期栗東市教育振興基本計画も、そのように進めさせていただきたいと考えております。

まず第3期の成果と課題について、ご説明をさせていただきます。

資料は、第2章、第3期計画の振り返りと今後の課題と書かれております資料に基づき、説明させていただきます。

項目的には、第3期栗東市教育振興基本計画の項目について、それぞれ各課の事業毎に記載しておりますが、大変数が多くございます。時間の関係もございまして、簡単にご説明させていただきます。基本的方向1 次代を担う子どもたちの「生きる力」を育む、からご説明させていただきます。

資料の1ページ目からそれぞれの事業が書いておりますが、下の方に記載しておりますように第3期計画の間に、児童生徒に1人1台の学習用タブレット端末を導入いたしました。そして、デジタル教科書の活用であるとか授業支援システムの導入などより効果的な学習を進めていくとしております。課題は、個人情報の管理であるとかセキュリティ対策の強化を図る必要があると

しております。

2番目の豊かな心を育むとして、人権同和教育、平和の教育の啓発と推進につきましては、平和教育に関しましては全市で取り組む平和のいしずえ事業の一環としまして、歴史民俗博物館におきまして平和のいしずえ展、また図書館においても、平和のいしずえコーナーを設置して連携して取り組んで参っております。

次に3番目の健やかな体を育むでは、基本的な生活習慣の定着であるとか、食育の推進に取り組んでまいりました。課題は、家庭との連携をより深める必要がある、また、給食につきましては、残菜が課題であるとしております。

4番目の子どもたちの育ちを支えるでは、児童生徒支援、市のスクールカウンセラーが巡回カウンセラー、スクールソーシャルワーカーがアウトリーチ支援を行った事業。それから特別支援教育コーディネーターと連携を図って進めております。課題は、校内教育支援センターの充実を図る必要があると考えております。

次に、基本的方向2 社会全体で子どもたちの健やかな育ちを支えあうです。

1番目、人権を尊重する社会をつくるということで、住民意識調査、地区別懇談会、また研修等も実施しております。その中で、男女共同参画がございいますが、今後は性の多様性という部分も課題としており、職員の研修も実施してまいります。今後の地区別懇談会の在り方も課題としております。

次に2番目、家庭・地域の連携により教育力を高めるところですが、家庭の教育の支援ということで、家庭・地域・学校・園・行政が連携し、0歳から15歳まで連続した子育てと生きる力の根幹になる非認知能力の重要性について啓発してまいりました。課題といたしまして、非認知能力という言葉自体がなかなか浸透しにくい部分もあり、今後は0歳から15歳まで連続した子育てというところのより充実した取り組みが必要になってまいります。

続きまして、基本的方向3 安全・安心で信頼される教育環境をつくるです。

1番目、信頼される校・園をつくるということで、地域の方をゲストティーチャーとして迎えた学習や中学校の職場体験活動をしております。また、学習参観や学校行事の公開により、開かれた校園づくりに取り組んでまいりました。

そして、2番目の教職員の働き方改革と資質向上をはかるでは、教職員の指導力の向上に、さまざまな取り組みを実施してまいりました。

3番目の教育環境の充実を図るでは、校園の施設整備の中で、防犯カメラの設置、防犯対策の機能強化、学校大規模改修、グラウンド改修といった物理的な改修工事を実施しました。課題といたしましては、施設の老朽化、長寿命化であります。

4番目、校・園における安全確保と安全教育の推進をはかるでは、交通安全ということで、通学路等交通安全プログラムに基づいて安全点検、順次対策を行っております。こちらにつきましては引き続き通学路等の環境改善の充実を図る必要があります。

次に、基本的方向4 人と地域がともに輝く生涯学習社会をつくるです。

1番目、生涯学習推進の場の充実を図るでは、生涯学習の場の充実ということで、各学区のコ

コミュニティセンターと連携しながらはつらつ教養大学であるとか講座を開催しております。生涯学習施設、自然観察の森、森の未来館など利用促進を図っております。図書館は移動図書館の再開ということで地域の皆さんにも使っていただける形で取り組んでおります。課題として本館と西館の役割の明確化、効率的な図書館運営を行う必要があります。

文化財ですが、栗東市文化財保存活用地域計画を作成し、市内様々な文化財の保護保存活用をしてまいります。

2番目に生涯学習推進の成果と活かす場をつくるでは、特に来年度開催されます国スポ障スポについていろんな啓発をし、機運醸成を図っております。文化活動についてはさきらを文化活動の拠点施設として様々な活動をしておりますが、さきらの老朽化による施設改修が課題となっております。

以上、第3期の成果と課題についての説明とさせていただきます。ご協議のほどよろしく願います。

議長：竹村市長

ありがとうございました。

簡単な説明となりましたけれども、事前に資料もお渡しをさせていただいておりますので、皆様方、気になったこと等ご意見をいただきたいと思っております。

第3期5年間の振り返りになります。何でも結構でございます。委員の方からご発言ありましたらよろしく願います。

朽木教育長職務代理者

私の感想なり、思い、考えをお話させていただきたいというふうに思います。

I C Tの関係でございますけれども、I C T等の教育環境が整備されまして、市内全部の小学生、中学生に1人1台、学習用タブレットが導入されたということでございます。

それから、今日の午前中、令和7年度使用する栗東市の小学校中学校の教科用図書の採択に関する会議がございました。けれども、一方では、まだデジタル教科書というのが、導入されていくというふうなことの方向に向いているというふうに思います。

このように栗東市の教育現場、学校現場教育現場においても、I C Tの波はもう確実に押し寄せています。ここからは、栗東市云々でなしに私の話をちょっとさせていただきます。

私生活の中にパソコンなり、スマホが入ってきたことによりまして、辞書を引かなくなりました。スマホですぐ調べてしまいます。パソコンで手紙書いたりとか、いうようなことで、ペン、筆というのは、特に職業上、筆を持たないといけない立場にあるんですけども、毛筆用の書体もございまして、筆も持たないようになりました。それからまた、新聞もあまり深く読まない。あとは、スマホで自分の都合のよい時間に見たい時にスマホで見てしまいます。私の生活の中ではそんなことがあります。それから、I C Tの環境整備の推進ということで、スマホ云々ということで小学生中学生には多分そういうような影響はね、ないんではないかなというふうに思います。

れども、本を読まないとかゲームするとか、それからゲームの使用時間を親御さんとの約束が守れないとか。それからまた、ゲームをしてしまうと、自分の世界だけでもいいと思ってしまって、友達と協調できないとか、そのような影響というのは、出てくるんじゃないかなと心配をしております。それで、この辺の配慮につきまして、学校だけでそれは対策ができるというふうには思っておりません。やっぱり家庭とも連携、保護者との連携というのも大切であると思います。ICT等環境整備の推進が、栗東市の小学生中学生にとってプラスになって欲しいと思います。私を感じたことをお話させていただきました。

議長：竹村市長

ありがとうございました。おっしゃる通りだと思います。他、何かございませんか。

田中委員

今の朽木委員さんのご意見に関係してきますけれど、6ページの健やかな体を育むという中の①基本的な生活習慣の定着の今後の課題の2つ目に、生活リズムの乱れの一つとして考えられる携帯電話の使用について学校、家庭で考える時間を設ける必要があるとありますが、これにつきましては、平成19年から川島隆太先生という、東北大学の先生に栗東市の講師として招聘して依頼して中学校の2年生の段階で講演会をしていただきました。その中でスマホの使い方についてもご指導いただきました。栗東の子はその時点でもスマホを扱う時間が非常に多かったんです。学力調査の学力のテストともう一つ生活の二つ種類があるんですけど、その生活の調査の中でも非常にスマホに関わる時間が長いということを言われて、その当時から学力向上とスマホ、以前はテレビですけれどもそしてゲームになって、それが今スマホになって、その兼ね合いをずっと課題として栗東市が教育の中で進めてきた部分があって、5年間の振り返りをする中でも今後の課題としてもこのことが上がっています。子どもが変わってきても、ずっと皆で考えていかなければならない重要な課題であるなど感じているところです。これについて、家庭地域、学校園や皆さんと下支えの部分に関係してくるだろうと思いますが、確認させていただきたいと思います。それから活字文化が離れていると朽木委員さんのご意見、その通りでありまして、就学前の園の方には移動図書館の復活によって、子ども達が本当に喜んで心待ちにして先生の読み聞かせ、自分たちが自由に本を見ているというようなことが、園の生活の中に増えてきているという情報も聞いております。このことは下支えの一つとして継続してほしいと思っております。もう一つはこの会議が基本計画であるけれども大綱というふうにイコールの状況になりますということですので、責任の重大さを心して進めていきたいと教育委員として思っております。

今井教育長

この5年間の振り返っていただいて、お二人の委員のご意見に対して、課で分析されてること、子どもの家庭生活のこと、スマホのこと、学力のこと、このあたりについて、何かお話いただきたいと思っております。

中川学校教育課長

今、田中委員がおっしゃったこと、朽木委員がおっしゃったこと、その通りだと思います。今般の学力学習状況調査の結果分析にかかりまして、今マスコミの上で流れていますのは、学力とSNSの接触時間とか、SNSの時間が長ければ長いほど学力が低いと。かつてはゲームだったんですね。ところが今はSNSという、人と繋がるためのツールっていう表現に置き換わっただけだと思うんです。ただ、それがややこしいことが、このSNSで、例えばインスタグラムみたいに、映像を間に挟んで、或いは、ゲームを間に挟んで、知らない誰かと交流し合う時間に子どもたちが大量に時間を使っている。裏を返せば繋がっていたいというのが、少し見え隠れするだけ、実社会におけるコミュニケーションが少し出たのかなと。逆もしかりで、そちらに時間を取られるために、家族の交流や、そのリアルな本来の学校での交流が減っている。なかなか悩ましいのが、そうなんです、社会全体が、そういったネット上の交流の方に重きを置きはじめているという流れの中で、学校教育としてどこまで贖うのかいうことを非常に考えるところです。もう一方ですね、朽木先生がおっしゃっておられますように、その知識がネットで検索しますと、類似のこと、シミラーコンテンツ、同じような内容がどんどん提案されるために、例えば、思想的な話で言いますと、非常に危ないっていうんでしょうかね、子どもにとって暴力に系統した言葉が検索をかけると、そればかりが情報として出てくる。ますますその傾向が強まるっていう、広がるのではなく狭まっていくっていう傾向がある。これのことについて、学校としてどう教えていくか。その辺り、非常に悩ましいところです。ただ、次の4期の中で出させていただくんですけど、これまでも体験活動をすごく大事にしてきたんですが、今回、肌で感じる実際の冷たさであったり、温かさであったり、匂いであったりっていうのを重視していくような教育活動を推奨していければと。そのことによって、二次元でしか、見聞きしない情報をもっともっと温度のある匂いのあるようなもの変えていけたらと考えております。

議長：竹村市長

ちなみに今スマホの保有率はわかったりするのですか。

中川学校教育課長

今、調査は一切してないんです。と言いますのは中学生で言いますと、9割以上持っている。むしろ持ってない子を浮き彫りにするような子を調査してしまうぐらいに。大体修学旅行でスマホを回収しますと、学級の9割強の子ども達が持っています。

議長：竹村市長

まあ、皮膚感覚でもそんな感じですけどね。小学校は。

中川学校教育課長

小学校は8割強くらいです。特にもう栗東の子どもですと、やっぱり街の子っていうのでしょうか、持ってて普通に近づきつつあると思います。

議長：竹村市長

学校に普通に持ってきてもいいの。

中川学校教育課長

以前ですともう禁止が前提だったと思うんです。ところが大阪の地震の以後、子どもたちの安全確保という意味で持たせたいという親の願いもあり、許可制度でうちの子は持たせます。朝に預かり放課後に返す。その仕組みを12小中学校しております。

議長：竹村市長

他にいかがですか。

内記委員

市長におかれましては、日頃から教育委員会関係事業にご理解ご協力いただき、ありがとうございます。また総合教育会議につきましては、市長が出席をしていただいて、委員と懇談していただいて、大変感謝いたしております。今の関連があるかと思うんですけども、1つお聞きしたいのが、小中学生の学力向上のために、第3期教育振興基本計画では、今まできりぎりフルチャレンジでのくりちゃん検定を実施をしていたという経過があるんですけど、これを終息いたしまして、今後は、日常的な取り組みにより、個別最適な学びにつなげていく必要があるとしておられます。第4期、次の教育振興基本計画では、具体的にはどのように取り組みを考えておられるのか、方策的な部分をお聞きしたい。これにつきましてはご存じのように、毎年学力学習調査では、栗東市の学力につきましては、全国平均より下回っているというのが現状でございまして、この調査を受ける児童生徒は毎年変わるわけですけれども、同じような結果が出ているということで、何か問題があるのか、学力向上に対策はないのかということで、お聞きしたい。市長におかれまして、内容について、所見をお伺いして、担当の方から具体的な方策が第4期を目指しているのであればお聞きしたいと思います。

議長：竹村市長

第4期については、この第3期の振り返りが終わってから、後程ご議論していただく形になりますので、詳細についてご説明いただいてからお聞かせいただきたらと思います。きりぎりフルチャレンジの改革ということ自体の全体像が把握できてないところがありまして、各論のところについては、お答えできないところございまして、大変申し訳ありません。また後程、次期4期の時にまたご議論いただきたいと思います。

内記委員

学力学習状況調査のことについては、市長はどのように思っておられますか。

議長：竹村市長

もちろん高ければ高いほど、いいんでしょうけども、僕自身、小中学校、この町で過ごさせていただいて、決して成績がよかった方ではないのですが子どもたちのいろんな価値観でありますとか、いいところ見るといのは、栗東でも大変良い取り組みをされてきたと思います。ただ一方で学力というの基本的な特徴的なもので伸ばしていくというのは、教育現場或いは行政としても責務が私はあると思っていますので、今低いのであれば、伸ばしていく必要があるかと思えます。そのためには今後の皆さん方と共有しながらやっていくべきことであると思っています。

今井教育長

今まで栗東の方では、学習状況調査の中で、学習実態は公表はしていたんですけど、正答率とか、公表していませんでした。今年は教育委員会の中で、学校長も含めて公表しようという方向に検討しているところです。その理由は、1つは、今までの取り組みがどうだったのか、子どもたちの学力落ちていることは、本当に生きる力の根本をつけていくことで、教育の方としては責任が重たいと思っています。公表によって自分たちに指先を向けようということ。もう1つは、今何が足りなく、そのためにはどのような施策が必要なのかを明らかにしていき、市に協力をお願いすることであるとか、支援いただきたいとか明らかにしようというこの2つの理由で、今年は他市と比べて低いということですけども、正答率の公表を検討しているところです。

議長：竹村市長

それは教育長と共有しています。

多田委員

色々とお話を聞かせていただきました。中学生の子どもがいる私としては若干耳が痛いところもありまして。今回タブレットを1台ずつ支給していただいたんですが、子どもに聞くと、健康観察、自分が元気かどうか記録する、これしか使ってないと。授業中は、たまには使ってるけど、YouTubeを見ている人もいます。どんどん子ども達の方がタブレットを使うのが上手になっていて、学校のセキュリティが緩い、という声も聞こえました。なので、過剰なほどにセキュリティーをかけていただきたいと思います。どんどん子どもは上手になっていって、小学校でも、ラインはできないはずなのに、友達同士で議論をし合える場がある。そこで、ラインのように、終わった内容のところで、ずっと話をしていた子ども同士で。そこで、写ってる子どもが望んでいない写真が、流出していたというのを聞きました。もう少しそれを上手に、子ども達の学習のために、使えるようになって欲しいと思います。せっかく1台ずついただいている、もっと学習

を延ばしたり。遊びというあれですけど、「すしだ」というお寿司が順番に流れてきて、その名前をタイピングしていく、タイピングの練習をするためだけ小学校で入れてよかった。そういったものを、また、遊び半分ですけども、やっぱり役に立つことなので、そういったアプリみたいなものを入れることを、検討してもらえると。計算をやったら何かが潰れるみたいそういったちょっと遊び感覚みたいなことができるアプリも入れてもらえたら、子ども達がやる気に繋がっていくのかなっていうのは少し思いました。また検討していただけたら嬉しいと思います。

議長：竹村市長

保護者からの視点というか目線の話でした。タブレットの現状のその使い方というのがよくわかってないので、そのあたりは今どうなっているのですか。

中川学校教育課長

おそらく現状としては多田委員さんが見ていただいているような状況だと思います。そこには学校なりの迷いもあるし、1つまず重要なセキュリティのお話をされたのですが、子どもたちの中でハッキングって言うのは、おそらくもっと手前の部分。今、学校の中に入っておりますインターネットとか外部接続している3種類の線があるんですが、1つは一番強いL GWAN系の個人情報システム、一番強いもの。そして子どもたちが使っているタブレットが接続されている学習系、教員が使っているのは校務系で、成績処理をしたり、出席管理をしたりです。そんな簡単に破られるようなものではないのが一つ。ただ子どもたちの日進月歩の興味本位での技術っていうのはどこまでかわからない。もし何かお気づきがあれば、またぜひ教えていただきたいと思います。2つ目の学習コンテンツを使えるような、有益なソフト、というのがいっぱいありまして、今、おっしゃる通り、「すしだ」は小学校の方で流行っています。中学校は社会科は昔流行ったモモ鉄っていうゲームから派生している社会科の教材があるんですけど、なんかもう、中学校区内の中学校を出たりしてまして。こんなものを入れていいですかという学校の申請を学校教育課の方で、安全性とか、中毒性というようなことを考えながら評価したりですね。増えていきます、使えるソフトが。最後に、根本的な話でずっと使っていくことがいいのか、そのタイミングよく使う方がいいのかというところで、栗東市の場合、1つ指標になりましたのは、田中先生がおっしゃった、川島隆太先生のご助言があるんです。何かを学ぶためにそういったメディアを使うのは、重要なのは、省いた時間で何ができるのかと。省くことがいいことではなくて、例えば、苦勞して何回も変えていく作業を省くために、レシプロの上で、ペンで書かせるのは意味がない。脳を全然使ってない。脳を鍛えるための使い方としては、私は自分の子どもに、そんなにそんなメディアを与えてない。タブレットも出してないし、授業の大半をタブレットに済ませる事をよしとしてないのも事実です。ポイントポイントで、教科書のほとんどにQRコードがありまして、そこで映像を見る時が授業の中で、特に社会・理科、すごい素敵な資料、動画で見られます。そういうふうに部分部分で使っている現状でして、その教科によって多少多い少ないあるんですけど、私も学校現場で見ていた中で消しゴム鉛筆同じように、1道具として子どもの傍にあって、ち

よっと使ってみようかって言ったらずっと使っている、そういう使い方をしていきます。

議長：竹村市長

いずれにしても、タブレットを使うという方向性は、これからももちろんあると思うので、そのメリットデメリットあると思うのですが、今の現状では、使うようなことも、ありますけど、まだまだ使い切れてない側面もあるというのは、感覚的にはある感じですかね。

中川学校教育課長

そうですね。もう1つは、イメージいただけるように、若い教員ほど使える。使いこなせる。年配の先生にとってはちょっとハードルが高い。そういう意味では、年々増えていこうと思っています。

議長：竹村市長

他よろしいですか。振り返りにつきましては、これまでとさせていただきます。

それでは次に、骨子案としての施策体系の具体的な取り組みについて、事務局から説明を願います。

太田教育部長

施策体系の具体的な取り組みについて、2枚目の検討としている、資料で説明をさせていただきます。

第4期栗東市教育振興基本計画施策体系で、まず基本目標から、以前は心豊かにたくましく生きる 人の育成 というものを、心豊かでしなやかに生きる 人の育成 ～レジリエンスを高める栗東の教育～ に変更しております。こちらにつきましては、今年度より新教育長として、就任されました今井教育長の思いがありますのでお話いただければと思います。

今井教育長

新しい教育振興基本計画のベースに流していきたいもの、今後5年間を考えていきたいところをお話させていただきます。

今まではどちらかというと、強さというものが強調されてきた。ところが、今時代は先がなかなか見通しがたたないというか、時代の変化が早過ぎて、今日よかったことが明日はいけない、このようなことが複数起こる時代になってきました。そういった時代において、子どもたちがたくさんの壁にぶち当たる我々もそうですが、そういったときに当たっても、こけてしまうのではなくて、そこから竹のようにしなやかに復活していく、これを大事にしたい。それをレジリエンスと回復力、こういった意味で、しなやかな強さを持てるようなことを今回の教育振興基本計画のベースに流していきたい。施策体系には、しなやかさ、レジリエンスが根底に流れていく計画をしていきたいと思っています。今後5年間はこれを軸に、施策や議論を進めていきます。これに

ついてご意見をよろしく申し上げます。

太田教育部長

それでは施策体系について説明させていただきます。基本的方向を方針としました。基本項目は基本的には第3期の基本的方向、項目を踏襲しておりますが、わかりやすい表現、シンプルな表現に変えています。1番は、次代を担う子どもたちが子どもといういい方で「たち」を抜いております。

基本項目4番は、育ちを支えるでしたが、多様な学びを保証するに変更しております。基本方針2番目は、社会全体でとしておりましたが、社会を地域と共にという表現で地域とのつながりを大切にしております。同様に基本項目1は、社会というよりも、子育て・教育を進めていくとして、(2)は家庭・地域との連携を強調しております。

基本的方針3番目は、安全、安心を強調して、基本項目で(1)と(4)に分かれてたところを、一緒にして、「子どもの安全第一主義」の推進と変更しております。具体的な取組についても基本的方針、基本項目に基づきましてシンプルにしたり、新たに取組みを入れております。こちらは具体的な取組になりますので、課長から説明させていただきます。

中川学校教育課長

私から具体的取組についてご説明させていただきます。先ほどの基本目標の変更に合わせてまして、実は、今井教育長が就任後すぐに、12校それぞれ、すべて訪問され、校長と会話をされました。その後に各校に指示されましたのが3つありました。

1つは学ぶ力というお話です。もう1つが、不登校対策。そして最後が、中学校3校に向けまして、部活動の地域移行。この3項目を、まずこの具体的取組みにきっちりと埋め込むという作業をさせていただいております。また、前期3期から4期に変えるときに、もう言葉を見れば、何を示しているかをわかるように表現を変えていこうということを、部局内で申し合わせまして、少し言葉を足して、表現を変えております。

それでは、上から順にご説明させていただきます。先ほど同様に、赤修正見え消しがある方で説明させていただきます。まずきらりフルチャレンジの改革につきまして、田中委員ご質問の通り、実はここには多く、舵を取り直しております。それは、これまでのような漢字を解くとか、1個1個の問題を解くという、学力いいますと、実質陶冶と言われる知識を組み込む形のきらりフルチャレンジを少し、むしろこれからの学習で求められる、或いは全国学力・学習状況調査で求められているものについては、方法学び方ってというような、そういった方向の方にシフトしていくということで、従来から続けておりましたきらりフルチャレンジについては、第3期でいったん閉じております。その代わりに、学びに向かう力、という表現にしております。第3期はきめ細かな指導という表現を使ってたんですが、授業の中に見ていただいたらわかりますように、実は包括的協定を結んでいました滋賀大学の学生に支えてもらって、学校の中で細やかな指導を実現するという内容だったんですが、今回は明らかに学力、学びに向かう力の方に力を注いでいこ

うということで、1番目に学びに向かう力の向上としております。2つ目、授業の質を高める学校DXの推進、ここには先ほどのタブレット以外にも、教員の導入しようとしています同時に子どもたちの画面が共有できたりとか、或いはAさんの意見をみんなで見てみましょうという形で、焦点化するような、そういった授業支援ソフトを入れていこうと今考えております。縦でずっと説明させていただきまします。発達段階に応じた人権教育の推進、子どもたちの、まず愛着から始まり、そして他者理解始まりというふうに、それぞれの年代に応じた人権教育をしていこうという形に表現を変えております。

その次、先ほどの体験活動については、肌で感じるということで、子どもたちが五感を研ぎ澄ましたりとか、体を使ってという活動を大事にしていく。これがいわゆるICT教育の、この部分を補うものであろうと考えております。

その次、基本的な生活習慣についてはそのまま残させていただきました。食育もここにセットしながら進めていきたいと思っております。平成19年にありました、早寝早起き朝ご飯に近いイメージで、取り組んでいけたらなと思っております。

体力の向上と健康の保持増進についてはそのままあげさせていただいております。

次の不登校対策に関わって、昨年11月、栗東中学校を会場に開催いただきまして、皆さん、ご協議いただきました。その結果を受けまして、校内支援教育センターを中心としたというのを、栗東市の不登校対策を柱としていくことを明言していくということで、センターを中核とした、不登校支援の充実と表現に変えさせていただいております。きめ細やかな特別支援教育の推進は、きめ細やかなをつけさせていただいて、質の向上をイメージしております。

3番目。日本経済の回復とともに、外国の子どもたち、ルーツを持つ子どもたちもどんどん増えて参りました。そういったことで、外国にルーツを持つ子どもの支援の充実というものを新しく、いれております。

その次は、人権に関わる項目につきましては、大きく項目を変えております。

住民啓発については外しております。男女共同参画という言葉よりもむしろ今ですと、ジェンダー平等の方が、概ねみんなが願ってるってことに辿りつけるだろうということで表現を変えております。それと職員の人権意識の向上に合わせまして、バージョンアップということを入れさせていただいております。言われますように例えば年配者がよく知っていて若者が知らないというのではなくて、実は若い人の方がアップデートされていて、知識であったり感覚が新しいということ、もちろんありますので、バージョンアップという表現をつけております。

これまで続けてきており非認知に力を置いた子育て教育ネクストプロジェクトですが、方向性を少し変えまして、一貫性であったり、連続性であったり、つまり0歳から15歳まで途切れることなく、同じことを子どもたちに教えたり、習慣づけていきたいということで、0歳から15歳までの連続性を大切にする言葉を付け加えた上で、ネクストプロジェクトについて表記しております。学校教育以外の部分も私の方で一括してお話させていただきます。青少年の健全育成についてはほぼ全文で残しております。家庭教育の充実に向けた支援という表現で、変えております。地域に根差す社会に開かれた校園づくりについては、もう当然進めるものとして、今ここであえて上

げずに、次の項目から挙げております。

保育教育に関わる人材確保、ご承知のように今教員不足、なり手不足ということで、学校現場は非常に苦しんでおります。園にしてもそうですが、人手不足は、ずっと続いている課題でありまして、そういった部分の確保とその方々の力を上げることに力を入れていこうということで表現しております。

その次ですね、校園の組織力向上に向けた仕組みづくり。実はこの項目を立てるに当たりまして、部局内でもかなり時間をかけました。と申しますのは、社会問題化しているカスハラであったり、保護者からのクレーム対応であったり、そういったものを園の先生や学校の先生が、直接受けることなく、先生らを支える仕組みを作ることができたら、もっと教員保育者は、子どもたちに向き合えるだろう、保護者に向き合えるだろう、というところでそれをどう表現するかということで、ここでは組織力という表現で校園の組織力向上に向けた仕組みづくり、という表現を使わせていただきます。

それと働き方改革。校園施設の整備と活用、空き教室の例えば学童の利用であったりとか、そういったことも、4期においては、始めていきたいということで、活用という文字を入れております。

小中学校、幼稚園と給食の充実。それから、通学と通園、そして園外活動、大津の事故がありましたけどそういったことにつきまして、安全確保に努めていくと。また、この1月にありました震災もそうなんですけど、校園の非常変災への備えづくりと地域との連携。本当に1つのエリアで皆さんが被災すると助け合いが必要になることがありまして、地域と校園の連携を進めていけばと思っております。生涯学習の場の充実を図るところも残しております。

各地域資源、地域にたくさんありますその資源を活用して、生涯学習を進めていこうということです。

生涯にわたる豊かな読書習慣の推進。これまでの読書習慣に加えて、図書館の充実に変えまして、将来にわたる豊かな読書習慣の推進という表現でさせていただきます。

文化財の保護、保全活用は従来通り、生涯スポーツの振興も従来通りです。そして新たに設けました、地域とともに進める部活動の地域移行と地域連携という表現で、中学校の部活に係る対応をいれさせていただきます。

そして最後、市民文化や芸術活動の振興も表現をそのまま残させていただきます。以上でございます。

太田教育部長

これで、施策体系の具体的な取組について説明を終わらせていただきます。ご協議のほど、よろしく願いいたします。

議長：竹村市長

はい、ありがとうございました。

それでは第4期の栗東市教育振興基本計画の施策体系ということで、大きくは4つの基本方針、その中で基本項目がそれぞれあり、その中で具体的な取り組みということで、今ご紹介していたところでございます。皆様方から様々ご質疑またご意見等いただきながら進めてまいりたいと思いますのでよろしくお願いします。はい、田中委員。

田中委員

今ご説明していただいた中で、時代の流れ、移り変わり、教育も現代社会の流れに背景がある中でこの栗東市の今後5年間の骨子の内容も含めて時代に合っているということで、大賛成です。その中で私が一番賛成したいのは、しなやかに生きるという、しなやかという言葉大好きです。今までは、心豊かでたくましく生き抜くというスタンスでしたけれども、変災があったり、変化する時代を生き抜こうと思うと、しなやかさがないと、という意味で大賛成です。それから今、詳しくお話をしていただいた中でも、時代の要請、未来の課題というのもきちんと入っているなという箇所が幾つかマーカーで、今印させていただきました。

質問をさせていただきたいと思います。この中で聞き逃したと思うんですけど、1番の(4)番の③。外国にルーツを持つ子どもの支援の充実という多様性というのものもあるのか、人数も増加していますって説明がありましたが、これが項としてここにおいてきた背景をもう一度お聞かせ願いたい。それから、人権に対しての、職員の人権意識の向上とバージョンアップ。向上とバージョンアップという並びです。ここも私、理解しにくいので簡単でいいですので教えていただけたらと思います。それから地域の伝統行事というのは、非常に大事になってくるなど最近、しみじみ思うことがあります。なかなか学校教育の中ではそれができずらい、地域で守っていかなければいけないということで、地域の伝統行事というのは4番の(1)番、①の地域資源というところに入っていると解釈したらよいのでしょうか。

議長：竹村市長

はい。大きく3点。

中川学校教育課長

まず1点目、外国人の子どもたち、外国にルーツを持つ子どもたちを支援の充実、実はご承知のように、市の教育振興計画は、県、県は国を参酌して、その中で、日本社会がどんどん、外国の方々を入れていく、入れていく中でこれが必要だという現状。実際栗東市ですと45名の外国にルーツを持つ子がいる。小学校33名、中学校12名おります。本当に突如きて、知らない地域の中でやっていくということで、かつては子どもたちの非行問題が問題だったり、支援の充実によってそれが起こらないというのが確かにわかっておりますので、ここに今期は入れさせていただきました。もう1つですね、実は、先ほどおっしゃっていただきましたように、人権にかかわりまして、ここ1～2年の大きい流行りというんでしょうか。イメージは、アップデートという言葉が、人権研修であったり、いろんなどこで使われる。かつてのように、若者が物を知らず、年寄

りは知っていてというものを、このアップデート。そういう男女の仕事の分担であったりっていうのを、今の若者たちの方が、何の勉強もしてないけど、もっと感覚でわかっている、それはもしかしたら部落問題もしかり、或いは人種問題をしかりと、そういった意味では、従来のように研修を重ねて積み上げたものとは別に、時代の空気を作った人たちから学んでいこうと。年代を超えた相方向で、その偏見をなくしていこうと、この表現を使わせていただきました。

安本人権教育課参事

今までは部落差別問題をどちらかというと特化している部分がありましたけれども、すべて人権課題は、どれも大切な課題だということで、今年度、変えさせていただいております。学校現場でも、これまでも、部落差別だけでなく、性の多様性であったりとか、いろんな取り組んできた課題を大切にしながら、前やったことをそのままやればいいのではなくて、やっぱり人権課題もどんどん新しくなります。それを意識しながら、アップデートしていくという、バージョンアップしていくという意味で、変更しております。

川津生涯学習課長

4番目の人と地域がともに輝く生涯学習社会をつくる、1点目の①地域資源の部分でございますが、以前は地域施設をとしておりましたが、今回は各地域資源や関連施設を活用と変更しております。文化財の保護と活用ということで計画をさせていただいております。栗東市内には多くの地域資源、文化財がありますので、それも活用した生涯学習の推進としております。生涯学習講座におきましても、これまでも活用しております。

赤井スポーツ・文化振興課長

4番目(1)③文化財の保護・保全・活用について、所管しております出土文化財センター、歴史民俗博物館を通じまして地域の様々な文化財の発信をさせていただいております。その中で、歴史民俗博物館では博物館教室、昔のくらしということで、小学校3年生を対象に施設内にあります中島家住宅を用いまして小学生に体験学習をしていただいております。市内で発掘された文化財についても展示等、小学生が来て学んでいただいております。

田中委員

ありがとうございます。質問の中にありました言葉のことですか、これから作られる中で最後のページでもいいので、言葉についての説明、一般市民の方がみられても分かるようにしていただきたいと思います。もう一つ、質問です。食育の推進を残されたのは、やっぱり子どもの食生活に差があってなのか、残された理由をお聞かせ願いたい。

中川学校教育課長

学校教育としては、先生も感じておられますように一つは家庭によって大きく違いが出てしま

っている食育。その食育によって作られる体っていう部分をもっと、みんなで上げたいということがありまして。もう一つは栗東の地産地消もそうなんですけど、食に対する知識を持つことによって、生涯の食生活が変わってくる。将来の人生を豊かにするというのが重度であろうということが残させていただいております。

議長：竹村市長

歴史的な脈々と地域に伝わるような伝統行事。或いはお寺とか、神社にまつわる行事も、地域行事として関わるのが大事という、ご指摘もあったように思いますので、4番の人と地域がともに輝く生涯学習社会をつくる中に私も含まれてると思っております。他いかがですか。

内記委員

4期の基本計画の策定にあたって、教育委員会で協議させていただく機会もあるんだと思います。ここに挙げていただいた具体的な取組は、基本方針的な部分であるかと思います。もう少し具体的な部分については、また、今後、教育委員会で考えていくと思いますのでよろしくお願い致します。市長交えて懇談ということで、市長に対しては、いわゆる市長部局に対して、財政面で特にお願いしたいのは、学校施設の老朽化については、毎年、大規模改修工事で順次改修をしていただいているものについては、国なり、県なりの補助金があるかと思っておりますので順次整備していただいて、それに対して、一般財源もかなり使っていただいております。問題は、市内の幼稚園保育園こども園等の施設については、確か補助制度があんまりないかと思っております。毎年1回、学校園訪問をさせていただいております。かなり老朽化してるのが実情です。これについても、栗東市内にコミセンなど施設がたくさんありますけれども、両方の園舎なりそういう部分につきましても、長期的な観点で改修計画、財政支援をお考えいただけたらなと思っておりますのでよろしくお願いしたいと思います。

議長：竹村市長

はい。もちろん、必要なものについては、しっかりと予算をつけていくということに尽きると思います。この4月から今井教育長に代わっていただいたんですけども、様々、日々、コミュニケーションをとらしていただきながら、その辺のお話もしております。ただ一方で、財源には限りがありまして、すべてがすべてできるわけではないですが、今おっしゃっていただいた、子どもたちが学ぶべき、その施設をしっかりと下支えするのは、市長部局として予算を確保するのが一番だと思いますので、そこは日々頑張ってもらいたいと思います。

また合わせて申しあげるならば、施設のお話でしたけど、今後部活の地域移行についても、この財源確保については、市の一般財源だけを利用するのではなくて、例えば地域から応援をもらえるような仕組み、サポーターみたいな、そういうことも、知恵を絞っていこうと考えたりしております。入りも工夫しながらやっていく。そういうふうな時代でもあろうと思っておりますので、不断に心がけて参りたいと思っております。幼児課から何かありますか。

織田幼児課長

老朽した施設につきましては、改修もそうですが民営化などとあわせて考えてまいりたいと思います。

内記委員

財政厳しい中、いろいろ大変だと思いますけど、よろしくお願いします。

議長：竹村市長

はい。

田中委員

市長さんとのお話になるとお金の話になるんですけど、今、幼稚園保育園の施設の話もありました。それから中学校の部活動の地域移行の報酬の話もありました。厚かましいですけど、栗東市はどこも不登校が多いということで、教室には行けない、だけど学校には来させたいということで、別室で。小学校で今、栗東は教室を作っていただきました。市の予算からも指導者もいただいているところなんですけど、現実の話、今の指導者の人数では不登校の子ども達への対応する人数は足りないと思うんです。お金の話になって申し訳ないですけど、ぜひとも支援員の人数を増やしていただけるようお願いしたいです。人数、時間を増やしていただけるようにご検討をお願いします。

議長：竹村市長

はい。

多田委員

さらにで若干いいにくいですが、子ども達が学校で体育の授業をするときに体育館が暑いと言っています。教室は涼しくてありがたいんですけど、体育館と格技場にも涼しく、暑くないようにしていただけるとありがたいです。幼稚園とかの施設もきれいにしているのですが、あんまり最新にしないでほしいなという思いもあって、手を出したら水が出るっていうのは、子ども達が蛇口をひねることがない、ドアもドアノブを回すこともないですし、家も蛇口をひねらなくても水がでます。そういう意味では幼稚園はアナログであってほしいなと思っています。手首が固い、遊びの中でコマを回すようなことをしたり、でも、手首が固くてうまく回せない。なので、園は安全できれいであってほしいけど、あまり最新のものばかりつけなくてほしいなと、個人的にはちょっと思います。部活動の地域移行なんですけど、スポーツ少年団としても色々と検討している中、すべての種目がなかったりとか、ゴールの高さが違ったりとか、なかなか一緒に活動はできないですけど、指導者の方も協力したいとおっしゃってくださる方もおられますの

で、連携しながらスポーツ少年団も一緒にさせていただけたらなと思っています。0歳から15歳までの連携をとさっきおっしゃっておられましたが、不登校の子たち、中学校からとか小学校からとか、幼稚園で今、不登園ってお聞きしましたけど、その子がどう育ってきて、なぜ今不登校になっているのかというのを考えていけたらいいのかなという風に思います。もちろん、部活だけが楽しくて行けてる子たち、部長もやっているという子もいたので、やっぱり居場所ってというのは大事だなと思います。やっぱりなぜというのを考えていかなければならないと思います。相談窓口だったり、栗東市から家庭を訪問してくださっているんですけど、その子は幼稚園のとき、幼稚園に入る前はどうしてたのか、そこはちょっと分からないということを知ったので、できればその子の情報としてすべてわかったら、なんなら検診の時から分ければ色々、不登校になりがち傾向であったりとか、というのもわかってくるのかなと考えますので、子育て教育Nextプロジェクトにもかかわってくるのかなと思います。

議長：竹村市長

今の0歳から15歳まで事務方で誰か答えていただければと思います。体育館については、今回、市民体育館のエアコンをつけて、ようやく市民体育館にということ、そういうレベルといいますか、これからやはり学校の体育館でも、トレンド的には設置していくような、時代になってくると思いますので、これをどこからつけるかとか、その財源はどうするということも、しっかりと持ち合わせていきながら、示していかないといけませんので。実際にそういうお声も聴いたりしますので、僕が中学校の時代と暑さが違うので、今は子どもらの安全を考えると、そういう方向は当然のことかなと思います。部活動の地域移行については子どもらは、一年一年が勝負だと思いますし、何年後を見据えてみたいな悠長なことを言うてることでもないと思うので、すぐ取りかかれるところから、取りかからないとも思ってますし、先ほども少し申しあげた、今後の財源のことも知恵を絞っていきたいと思っていますので、教育委員会と連携して取り組んでいきたいと思っています。

山口学校教育課参事

なぜ不登校になったという視点も大事だと思います。子育て教育Nextプロジェクトで、まず0歳からの愛着形成をベースとして、子どもに関わっていくことが大事だと思います。0歳から15歳までどのように連続させるか、どのように、子どもに関わったら、レジリエンスを高める教育なんかっていうことを、どう合意形成していくかということ、このNextプロジェクトとして進めていきたいと思っています。現時点では、中学校区別で、園から小中学校連携した取り組みを大切にしていかなければならないと描いてはおります。

議長：竹村市長

現状その辺の繋ぎの部分というか、多田委員が今ご指摘のように、就学前から見て、この子は、今どうなのか、ちょっと発達支援がいるのかな或いは今後ちょっと不登校になる可能性があるの

かみたいなことは見えるのか見えないのか、その辺はどう。

中川学校教育課長

実はですね、多田委員もご承知のとおり、健康増進課、発達支援課、そして学校教育課の児童生徒支援室ですね。連携が徐々にできつつありまして。そのストーリーっていうのがちょっとヒストリーを、発達支援課に残していこうっていう仕組みをここ数年作りはじめたんです。ですので、その子にもし発達課題があったらそこに問い合わせたらわかる。そういう意味で言うと半分ぐらいわかるんです。ただ生活の部分、ここになりますと、やっぱり虐待であったり、保護者の相談があってからの追跡なので、小さい頃傷つけられたとか、なかなかそこでは分からない。ただ、先ほど申したように発達がある程度歴史が見えてきたということによって、むやみやたらに問題として不登校が起こっているだけじゃなくて、その子はもしかしたら1人で勉強した方が伸びると、確かにいますよね。そういう意味では不登校問題の解決っていうんじゃなくて、学びの多様性っていう発想で、今後、不登校を考えていこうと学校教育課は考えておりまして、どんな子でも、ちゃんと居場所を設けてあげられるか。

議長：竹村市長

先ほどの蛇口の話だけど、何か幼児課の方からありますか。何かそういう視点みたいな。

内田幼児課参事

はい、あれはコロナの時に衛生面から接触しないようにということで、自動水栓の蛇口となりました。おっしゃりますように、確かにつけないといけない力というのは遊びの中で力をつけていきたいと思います。

今井教育長

今、いい話を聞かせていただいて、レジリエンスを高めるにはそういう何でも与えすぎるんじゃないくて、不便な状態からいかに立ちなおっていくか、大切であると思いました。ありがとうございました。

議長：竹村市長

施策体系の具体的な取り組みでございすがよろしいですか。この体系を、この第3期であればこういうような冊子に、第4期バージョンがこれから、これをもとにできていく、その過程でまた教育委員の皆さんからも様々、ご意見等もいただく場面もあると思いますので、また、今日のご議論いただいたことをベースに、今後ともよろしくお願いをしたいと思います。

それでは策定をしていきます、第4期の教育振興計画を、教育大綱に変えていくことについて、私も変えていければということを思っておりますが、皆様方、いかがでしょうか。

朽木教育長職務代理者

第4期の教育振興基本計画を大綱に変えていこうということのございますけれども、これまでの栗東市の教育振興計画というのは教育基本法に基づいて策定をしており、第4期栗東市教育基本計画も、第3期の計画を踏襲して、そしてまた、今期は、心豊かでしなやかに生きる人の育成、レジリエンスを高める栗東市の教育、というのを基本目標として策定されております。そして、この教育大綱というのは、教育の根本となる骨組みを大元となるようなものでございます。この両者は、同じ方向を向いていなければならないものだと考えます。ですから、今回の第4期栗東市教育振興計画の目標や策定の基本部分が、教育大綱と該当すると考えられるため、これまで同様に、第4期栗東市教育振興計画を大綱に代えていただいてもよいと私は考えております。以上でございます。

議長：竹村市長

ありがとうございます。他よろしいでしょうか。

内記委員

結構です。

田中委員

結構です。

多田委員

結構です。

議長：竹村市長

はい。ありがとうございます。

今、朽木委員の方から集約してご意見いただいたと考えております。私も今回のこの施策体系につきまして、事前に目を通させていただいて、教育長と共有をして、今回お話をさせていただいておりますので、大綱に該当するというふうに考えているところでございます。今後これをベースに、先ほど申しあげました教育振興基本計画を策定していくことになろうかと思えますし、冒頭、竹のようにしなやかにというお話がありましたが、竹というのは本当にまっすぐ育つというようなことが竹の特徴でもあるんだけど、しなやかにまたまっすぐ、この計画で子どもたちが育っていくこと、私も念願しているところでございます。

以上が今日、皆様にお諮りをさせていただくことは終了いたしましたけれども、他に何かございませんか。ありがとうございます。

それでは以上をもちまして、本日の議事を終了させていただきます。ありがとうございました。この後の進行につきましては、事務局の方、よろしく願いしたい思います。

西川秘書広聴課長

本日は次期栗東市教育大綱について、貴重なご意見やご提案いただきありがとうございました。皆様のご意見やご提案を参考に、今後教育大綱策定に向けて進めてまいりたいと思います。

それでは最後に市長より閉会の言葉をお願いします。

竹村市長

ありがとうございました。本日、大変貴重なお話をたくさんいただいたと思っているところでございます。今回、総合教育会議の形をとらせていただきましたが、このような場だけではなく、やはり日々、皆さん方とも、いろんなお話ができる場もあった方がいいのかなと思いますので、またオフィシャルにまた非公式にいろんな会議でも、いろんなご意見等も賜ればと思っております。

今回、いただいた意見を参考にさせていただきながら、基本計画にして参りたいと思います。今後とも、様々な形で、ご指導ご鞭撻をいただきますことをお願い申しあげまして、本日の閉会に当たりましての挨拶にかえさせていただきます。ありがとうございました。

閉会宣言 14時57分